

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0772700258		
法人名	社会福祉法人 千桜会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業所 ゆいの家		
所在地	福島県大沼郡会津美里町字高田道上2973-2 (電話)0242-54-6733		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年3月16日	評価確定日	平成19年4月27日

## 【情報提供票より】(2007年2月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.4 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1~2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,576 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

## (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名	
要介護1		要介護2		4	名	
要介護3	4名	要介護4		1	名	
要介護5		要支援2				
年齢	平均	歳	最低	歳	最高	歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	会津西病院・高田厚生病院・小林クリニック・大塩訪問歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム開設以来、「地域住民優先」を方針とし、入居者ばかりでなく職員も地域に住んでいる方を中心に採用して馴染みの関係を大事にしている。墓参りや自宅訪問、お盆や正月の帰宅と、家族との繋がりも大切に考えて支援している。居室利用料や食事代も安価に設定し、入居者本人や家族の負担の軽減を図っているが、職員体制に工夫や改善が必要となってきたので、見直しの時期であるように思われた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 法人共通の運営理念から、ホーム独自の理念を管理者と職員で話し合い、作り上げた。地域との交流や市町村との関わりについては運営推進会議を昨年11月から開催し、現在ホームの状況を理解していただいているのが現状である。浴室手すりの追加設置等ハード面ではまだ改善されていなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員一人ひとりが行い、それを管理者が取りまとめてホーム全体の自己評価とした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 昨年11月から運営推進会議を奇数月に開催している。議事録を作成しホームの現況報告や委員からの意見や要望を聴取し、改善に向けて話し合っている。3月は今回の自己評価の報告と外部評価について予定している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、入居者一人ひとりの生活の様子を担当職員が文書で家族宛に報告、送付している。玄関に「目安箱」と称した苦情受付箱を設置して自由に書いてもらうよう対応している。また、相談窓口と苦情解決第三者委員会も設置している。随時、電話や手紙等で入居者と家族の連携を支援している。運営推進会議の委員にも家族代表2名に参加していただき、要望の収集に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人の地域ボランティアの協力で、ホームにもボランティアとして定期的な交流はある。町主催の文化祭に入居者の共同制作手芸作品を出展する等地域の行事にも参加している。公民館の習字教室へ通っている入居者もいる。地域の自治会や老人会への加入はまだない。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民との交流の中で、その人らしい人生を歩んで頂くよう支える」というホーム独自の理念を職員全員で作上げケアに取り組んでいる。1名であるが、公民館の習字教室に通っている入居者もいる。		職員以外のスタッフであるシルバー人材センターからの派遣ヘルパーや系列デイサービスの職員にもホームの理念が浸透するように、話し合う機会を設けたり、日々の申し送りを通して統一を図る。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を含む職員全員で作上げた理念であるので、本人の思いや家族の思いが日々の個人介護記録に書き込まれている。しかし、介護計画にまでは反映されていないので、日々の暮らしの中にそれを生かした支援経過が不明である。		介護計画に連動できるような記録の書き方を毎月のカンファレンスの時間を利用して、取り組んでいただきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会	法人内の他施設併設なので、隣が民家でも、法人組織が優先しグループホーム単独での付き合いが出来ずに、自治会や隣組、老人会への加入はない。地域からは併設の特別養護老人ホームの一部という認識でグループホーム独自の認識は薄い。		昨年11月より運営推進会議のメンバーに地区民生委員に加わっていただいている。今後は更に区長にも加入依頼して、グループホーム単独で、より地域に密着した連携が欲しい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の要改善項目については、職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。また、今回の自己評価についても職員全員が自己評価を行い、管理者が取りまとめたという経緯である。		評価の目的と意義について、今後も話し合いの機会を設け、まだ、出来ていない部分については更なる取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年11月から運営推進会議を開催し、事業報告を行い、参加委員である家族からの要望も取り入れ改善に向けて取り組んでいる。</p>		<p>開催したばかりであるので、今後も委員構成も考慮しながら、継続して欲しい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人発行の広報誌や毎月のホーム便りを家族に向けて送付している。その時に担当職員が入居者一人ひとりの状況報告も兼ねた文書も添えて家族に報告している。必要に応じて、電話や入居者本人の手紙などでも支援している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>約2ヶ月ごとに家族参加の行事予定を計画し、家族を呼んで一緒に楽しんでいる。その時を利用して、家族の意見や要望を聞いたり、玄関に苦情受付箱も設置して。運営推進会議のメンバーに家族の代表にも参加してもらい、聴取に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>年1回の法人の定期異動と、夜勤の応援体制をとっている併設ディサービスの職員の異動も重なり、スタッフの異動は多い。ホームとしての法人からの配慮はなされていない。</p>		<p>少人数であるグループホーム職員のカバーが、併設ディサービスの職員11名の交代勤務という体制である。入居者と馴染みの関係づくりのためにも、体制の見直しが望まれる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は交代で年1~2回の研修受講の機会がある。その後、定例のカンファレンスで報告を行い情報の共有をしている。法人内でも各種委員会があり、勉強の機会を設けている。ただし、実際のホーム運営(介護計画実行、入居者を担当する等)に関わる職員の人数が少ないので、研修受講頻度も少ない。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加している。方部別の交流会や、地域のグループホームとの親睦会も行っている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と年齢の近いシルバー人材センターから同一ヘルパーを派遣してもらい、毎日の生活を共に過ごしてもらい取り組みをしている。地元の方なので話題も入居者に馴染みやすい。職員は畑作業等入居者に教えてもらったり、パッチワークを習って楽しんでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで入居者一人ひとりの気付きや思いを話し合っているが、ケアマネジメントにまでは発展していない。フェイスシートの本人の希望等の記録も入居時のみで、その後の記録様式もない。		介護計画に連動できるような記録の様式をカンファレンスを利用して検討して欲しい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の希望も取り入れて介護計画を立てている。入居者は職員が一人ひとり担当を決めて、家族への連絡や意見の聴取に努めている。		介護計画を実施する上で更に効果的に目標達成できるような具体的な取り組みの検討が望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しのために、家族にも同席いただき、意見や要望を取り入れながら、計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の体調の変化がない時には通院介助を家族に協力いただいたり、主治医と相談が必要な場合は職員が同席して対応している。また、受診記録も作成し、情報の共有を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	末期癌患者を受け入れた経緯もあり、その時はホームの限界を家族にも理解してもらい、話し合って対応した。併設事業所の看護師の支援も受けれる体制である。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の話しかけの声が大きく感じられた。トイレ誘導時の声かけも同様であった。		入居者の耳元での声かけ等言葉かけの時の声の大きさに注意したり、入居者一人ひとりへの個別対応を基本としてはどうか。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本来の職員の絶対数が4名と少ないので、ホームの日課を中心に生活している。一部の入居者は自分の希望にそった過ごし方もしているようであるが、全員への支援はできていない。		入居者一人ひとりの今までの生活歴や希望を聴取し、その人のペースを把握しながら、その人らしい暮らしの実現に向けた検討が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備から、調理や食事、後片付けまで職員と一緒にできる事をやりながら、和気合い合いと取り組んでいる姿が見られた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の悪い方には足浴や清拭を行ったり、本人の希望に合わせて入浴支援している。毎日入浴できる体制は整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	縫い物や農作業、公民館での習字教室への参加も支援している。毎年、町の文化祭参加の作品も共同で製作し、楽しみごととしている。日常的に全員の入居者に出来ているとは言えない。		引き続き入居者一人ひとりの支援となるように働きかけて欲しい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	散歩や買い物、ドライブ等の外出や墓参り、お盆や正月の帰宅も積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設デイサービスで利用者が行方不明になった経緯があり、それ以降法人の指示により、内玄関の引き戸上部に鍵を取り付け、常に施錠してある。夜間は家族の要望があり、2階の階段に転落防止用の柵を取り付けている。		入居者が閉じ込められているという精神的な閉塞感を感じないように、施錠しないケアを法人と職員全員で検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の避難訓練や年1回の夜間避難訓練を実施している。地元の消防団にも依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設法人の栄養士にチェックしてもらっている。おおよその食事摂取量の把握は出来ているが、水分量については具体的な量の把握はしていない。		一日のおおよその水分摂取量を把握して欲しい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者手作りの椅子カバーやランチョンマット等手芸作品や季節を感じさせる装飾品を飾り、親しみやすい空間である。窓もレースのカーテンを利用して、光の強さの調節ができる。冬季は床暖房であるので、足元の寒さ対策も万全である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、入居者の希望も取り入れられる。備え付けの家具があり、画一的にはなりやすいが、思い出の品を持って来たり、家族の写真や仏壇を持ち込んでいる入居者もいるので、今後も継続して取り組んでいただきたい。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症対応型共同生活介護 ゆいの家

記入担当者名 児島 幸子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。